

# 世界ローターアクト週間に ちなんで

ローターアクト委員会 委員長

## 山本和良

(大阪南RC)



1968年3月13日に世界最初のローターアクトクラブ(RAC)が産声をあげ、その設立25周年を記念し、1993年にRI理事会は3月13日を含む1週間を、RCとRACの交流を促進する目的で「世界ローターアクト週間」に指定しました。当地区RACも「世界RAC DAY」と銘打って3月15日に地区行事を行います。

現在2660地区では280名余りのローターアクターが、19クラブに分かれ、クラブや地区で若者らしく元気ハツラツに活動しております。

私自身もRAC出身のロータリアンとして、今期の委員会方針にRACの目標の一つである「将来ロータリアンになり得る人を育てる」という理念を掲げ、ロータリーの倫理指針の「4つのテスト」に照らし合わせ、彼たちの活動を検証し指導しています。その目標も徐々に現実になりつつあります。事実、次年度は3名のRAC出身のロータリアンが、当委員会でRAC活動をサポートして頂ける事になりました。とてもうれしい限りです。

地区RACの活動としては、地区社会奉仕委員会と、インターアクトクラブと共同実施した「ロータリーファミリー合同地区献血」(7月・2月)に始まり、「全

国統一アクトの日」(9月)、「地区連絡協議会」(10月)、「海外研修(カンボジア)」(11月)、「4地区合同交流会」(12月)、「香港リネン大学RACとの事業」(1月)、「全国ローターアクト研修会(福島)」(3月)、「地区年次大会」(5月)、「リーダーシップフォーラム新人研修会」(6月)などを行っています。特に今年度は、5月のロータリーフェスティバルでも、テントブースの運営と献血を実施します。その他にもRYLAやニコニコキャンプのお手伝い、また地区社会奉仕事業の「大和川・石川クリーン作戦」にも、2640地区のRACと共に参加します。この様にロータリーファミリーの機動部隊として一年中走り回っており、今やロータリーの事業に必要な不可欠な存在に成長しました。彼たちも活動を通して多くの事を学び、ロータリーの精神を身に着けた若者に成長しつつあります。

RCの将来を考える時、そして日本社会の未来を考える時、青少年奉仕の大切さを改めて実感します。ロータリアンの皆様にも、その必要性をご理解頂き、RACはじめ青少年関連のプログラムに対して、なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

